

子宮頸がんワクチンについて

山口県小児科医会

子宮頸がんは、HPV（ヒトパピローマウイルス）が子宮頸部に感染して起こる病気です。性交渉により約 80%の女性が生涯に一度は感染します。感染しても自然に治っていく人もいますが、一部の人は感染が持続してがんに進みます。

1990 年と比較して、近年 20～30 代の若い人たちの発症率が約 2 倍に増加しています。現在、日本では 1 年間に約 1 万人が子宮頸がんにかかり、約 3 千人が死亡しています。また、頸がんにかかった 1 万人の人は子宮を摘出されることがあり、妊よう性を失います。若年者の子宮頸がん予防として、ワクチンと定期的がん検診が重要です。

現在日本では、HPV ワクチンは定期接種になっていますが、ワクチンの副反応が報告され、2013 年に厚生労働省が積極的な接種勧奨は一時中止しています。その後、副反応についてはいろいろな研究が行われましたが、確実な因果関係は証明されていません。名古屋市の思春期の女子 7 万人に対して大規模な調査（Nagoya study）をした結果、ワクチン接種群と非接種群において、症状（体がだるい、やる気が出ない、不眠、頭痛などの症状）に有意な差がないことが分かりました。

HPV ワクチン接種後にみていただきたい症状としては、ワクチン接種後に注射部位に限らない激しい痛み（筋肉痛、関節痛、皮膚の痛み等）、しびれや脱力等があらわれ、長期間症状が持続するとの報告があります（1.5 件/10 万回接種）。万が一重篤な症状が出た場合には、適切な診療が可能な医療体制が整っています。山口県は、協力医療機関として山口大学附属病院が参加されています。

WHO（世界保健機構）は 2017 年に子宮頸がんワクチンに関する新たな安全声明を発表しました。世界の国々で子宮頸がんワクチンは、12 歳前後の女子に接種されていて標準化しているものです。オーストラリアのワクチン完遂率 80%ですが、現状日本は 0.3%にとどまっています。

今後、接種対象の子どもたちと保護者に適切な情報提供をしていく必要があると思います。

参照サイト；下記サイトをご参照して頂ければ幸いです。

1. [ヒトパピローマウイルス感染症（HPV ワクチン） | 厚生労働省](#)
2. [HPV ワクチンの接種を検討されている皆様へ - 岡山県 ...](#)
3. [子宮頸がん予防ワクチン\(HPV ワクチン\) - 日本小児科医会](#)
4. 東京小児科医会と東京産婦人科医会では共同で HPV ワクチン啓発リーフレット
以下からダウンロードできますのでご利用下さい。
<https://tokyo-pediatrics.org/archives/1609/> HPV ワクチン 東京版リーフレット
5. 日本産科婦人科学会
http://www.jsog.or.jp/modules/jsogpolicy/index.php?content_id=4
子宮頸がん HPV ワクチンに関する正しい理解のために
6. MSD connect
<https://www.msconnect.jp> から登録
ワクチン 子宮頸がん HPV 関連疾患から下記の動画を視聴可能です。